



JSCEKC

支部だより No.64 2007.7月号

支部だより
2007.7 No.64

土木学会選奨土木遺産報告

土木学会選奨土木遺産 ～関西支部からの選奨構造物の紹介～

総務幹事
関西電力㈱ 土居 裕幸

土木学会選奨土木遺産の制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年度に創設されました。ここでは、平成18年度に選奨された構造物のうち、関西支部のものを紹介いたします。

また、平成18年度土木学会全国大会（9月20日～22日、立命館大学）における広報活動の一貫として、近傍のターミナル駅に「土木学会選奨土木遺産」広報ポスターの掲示やチラシなどの配布を行うことで、広く一般に「土木遺産構造物」に対する認知と理解を促す広報活動を行っており、今回あわせて紹介いたします。

安治川トンネル（大阪府 大阪市）

安治川トンネルは、大阪市此花区と西区を結ぶ延長80.6m、幅員11.4m（2車線＋歩道）の戦前唯一の道路用河底トンネルであり、日本最初の沈埋式河底トンネルでもある。第2次世界大戦中の建設にもかかわらずモダニズム建築の特徴を備えている。現在の安治川トンネルのある場所はかつて渡船場であったが、交通量増大への対処や大型船の航行を確保するために、橋梁ではなく河底トンネルが計画され、1944年に完成している。1977年に車両の通行は中止となったが、歩行者・自転車通路は現在も使用されている。



■安治川トンネル

龍之渡井（和歌山県 紀の川市(旧那賀町)、かつらぎ町）

紀伊平野へ水を引き入れる小田井用水の主要施設である龍之渡井は、橋長20.5m、橋幅5.3mの水路橋である。約300年前に紀州藩の技術者である大畑才藏によって旧来は木製橋が建設されており、18m幅の川を岩盤を利用して、中間に1本の支柱も使わず掛樋を通したことで知られている。1919年には現存の煉瓦（三和土混合）アーチ造りの水路橋、3段に迫り出したアーチ環、スパンドレルは谷積石、水路部は再び煉瓦壁を持つ形式に改修されている。



■龍之渡井